

『二通の手紙』

「駄目だと言ったら駄目だ。」

「どうしてですか。かわいそうじゃないですか。僕、入れてあげますよ。」

「お前が言わないのなら俺が言う。そこをどくんだ。」

立ちほだかる山田君を押しつけて、佐々木さんは窓口に顔を出した。

「申し訳ございません。お客様。あいにくだった今、入園券の販売を終了いたしましたので、規則上お入れするわけにはまいりません。またの御来園をお待ちいたしております。」

高校生くらいの二人組の若い女の子は、佐々木さんの言葉に不服な顔をしながら去って行った。

この市営の動物園の入園終了時間は、午後4時、今わずかに数分を回ったところだった。

「まったく、佐々木さんは頭が固いんだから、2、3分過ぎたからってどうしたって言うんですよ。今日はまだ随分、客が入っているんですよ。」

「山田君がかわいそうだと思う気持ちは分かる。しかし、まあ待て。俺の話聞いてくれないか。」
そう言うと、佐々木さんは、何かを思い出すかのように、ゆっくりと話し始めた。

何年か前、同じ入園係の仕事をしていた元さんっていう人がいたんだ。元さんは、定年までの数十年をこの動物園で働いていたんだ。その働きぶりは、誰もが感心するものだった。ところが、定年間際に奥さんを亡くしてしまった。子供がいなかったものだから、話相手も身寄りもなかった。

その落胆ぶりは、見ても気の毒なくらいだったよ。

「このまま職場を去ったら、何を楽しみに生きていこうかねえ。」

元さんのいつもの口癖だった。しかし、それまでの勤勉さと真面目さがかわれて、退職後も引き続き、臨時で働かないかという話がもち上がったんだ。元さんの生きがいが、またできたっていうわけだ。

確か、学校が春休みに入った頃だな。毎日終了間際に、決まって女の子が弟の手を引いてやってきたんだ。小学校3年生くらいの子なんだよ。弟の方は、3、4歳といったところかな。いつも入場門の柵の所に身を乗り出して園内をのぞいていたんだ。時々、弟を抱っこしてのぞかせてやったりしてね。そんな様子がほほ笑ましくて、俺と元さんは顔を見合わせて眺めていたよ。

そんなある日のこと、入園終了時間が過ぎて入り口を閉めようとしていると、いつもの姉弟が現れた。何だかいつもと様子が違う。

「おじちゃん、お願いします。」

「もう終わりだよ。それにここは、小さい子はおうちの人が一緒じゃないと入れないんだ。」

「でも……。これでやっと入れると思ったのに……。キリンさんやゾウさんに会えると思ったのに……。」

今日は弟の誕生日だから……。だから見せてやりたかったのに……。」

今にも泣き出さんばかりの女の子の手には、しっかりと入園料が握り締められていた。何か事情があって、親と一緒に来られないということは察しが付いた。

「そうか、そんなにキリンやゾウに会いたかったのか。よし、じゃ、おじさんが二人を特別に中に入れてあげよう。その代わり、なるべく早く見て戻るんだよ。もし、出口が分からなくなったら、係の人を探して、教えてもらいなさい。おじさんはそこで待っているからね。」

入園時間も過ぎている。しかも、小学生以下の子供は、保護者同伴でなければならないという園の規則を元さんが知らないはずがない。けれども、何日も二人の様子を見ていた元さんだった。元さんのそのときの判断に俺も異存はなかった。



「御来園のお客さまに終了時間のお知らせをいたします。5時をもちまして当園出口を閉門いたします。本日は、中央動物園に御来園、誠にありがとうございました。」

閉門15分前の園内アナウンスだった。別れの曲が流れ、園内の人々は足早に出口へと向かう。出口事務所の前で待っていた元さんは、さっきから何度も自分の腕時計と、歩いてくる人々とに交互に視線を向けていた。

閉門時間の5時、とうとう人の流れが止まり、もう誰も出てくる気配はない。今にも門は閉鎖されようとしている。それからが大変だった。出口の担当職員に二人の姉弟を入場させたいきさつを告げ、各部署の担当係員に内線電話での連絡が行き渡った。園内職員を挙げて一斉に二人の子供の搜索が始まったのだ。

10分、20分、刻々と時間は経過する。事務所の中、祈るような気持ちで元さんは連絡を待った。

うっすらと辺りが暮れかかった頃、机の上の電話のベルが鳴った。

「見付かったか。」

園内の雑木林の中の小さな池で、遊んでいた二人を発見したとの報告だった。

数日後、事務所へ元さん宛てに、一通の手紙が届いた。

その手紙を元さんは、何度も何度も繰り返し読んでいた。

前略

突然のお手紙で驚かれることと思います。お許してください。私は、先日そちらの動物園でお世話になりました二人の子供の母親でございます。その節は、皆様に大変な御迷惑をかけてしまいましたことを心よりお詫び申し上げます。

実は、主人が今年に入って病気で倒れてから、私が働きに出るようになったのです。

その間、あの子たちは、いつも私の帰りを夜遅くまで持っていることが多くなりました。

弟の面倒を見ながら待っている幼い娘の姿を想像すると、どんなに大変だったか、寂しかったか、今更ながらに胸が痛みます。そんな折りに、子供から聞いたのが動物園の話でした。今度連れて行ってあげると言ってはみるものの、そんなめどすら立たない日々でした。

よほど中に入りたかったのでしょうか。弟の誕生日だったあの日、娘は自分で貯めたお小遣いで、どうしても中に入って、弟に見せてやりたかったのだと思います。

そんな子供の心を察して、中に入れてくださった温かいお気持ちに心から感謝いたします。自分たちの不始末は、子供ながらも分かっていたようでした。けれども、あの晩の二人のはしゃぎようは、長い間この家で見ることのできなかつた光景だったのです。

あの子たちの夢を大切に思ってください、私たち親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のことは、一生忘れることはないでしょう。

本当にありがとうございました。

かしこ

ところが、喜びもつかの間。翌朝、事務所に顔を出した元さんの手には、解雇通知の入った手紙が握り締められていた。今度の事件が問題になっていたのだった。

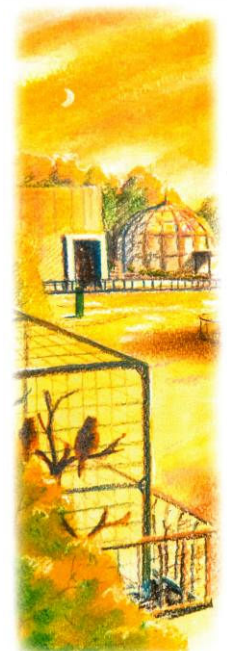
「そんなバカなことって。」

俺はどうしても納得いかなかった。あんなにあの子たちも母親も喜んでくれたじゃないか。それに、ここの従業員だって、みんな協力的だった。それなのに何でこんなことになるんだ。

元さんは、二通の手紙を机の上に並べてこう言った。

「子供たちに何事もなくよかった。私の無責任な判断で、万が一事故にでもなっていたらと思うと……。この二通の手紙のお陰で、また、新たな出発ができそうです。本当にお世話になりました。」

晴れ晴れとした顔で、元さんはこの職場を去って行った。



『二通の手紙』

年 組 番 名前

【質問1】

「二通の手紙」を読んで、考えましょう。

元さんは、幼い二人の子を、入園させるかどうかで悩みました。

泣きだしそうな声で、「弟の誕生日だから…だから見せてやりたかったのに…」という、弟思いの姉の優しさ。しかし、入園終了時刻を過ぎていましたし、保護者も一緒ではなかったのです。

もし、**あなたが、元さんと同じ立場だったら**、どうしますか。理由も考えてください。

ア 入園させる

イ 入園させない

そう判断した理由は

○

○

○



エキスパートB【母親からの手紙】 (1) (2) (3)について話し合ひましょう。

(1) 幼い二人の子どもを入園させてくれた元さんに、母親から一通の手紙が届きました。

その手紙には、動物園関係者へのお詫(わ)びと、父親の病気、弟の誕生日、姉の弟を思う気持ちが綴(つづ)られていました。そして、親子にひとときの幸せを与えてくれた元さんに対する、一生忘れない感謝の思いが述べられていたのです。

しかし、もし、幼い二人の子どもたちが、動物園の中で事故にあっていたら、保護者がいないにもかかわらず入園させた元さんに、母親はどんな気持ちになり、どうするでしょうか。

(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

(2) 「法やきまり」は、命や安全、財産などの「生活や権利」を守ると言われます。例えば、ここ数年で、交通事故の死者数は大きく減少しました。その背景の一つには、厳(きび)しくなった交通規則があると考えられています。例えば、飲酒運転を犯すと、多額の罰金(ばっきん)や重い懲役(ちょうえき)が科せられるようになりました。そのため、規則を守る人が増え、死者数も減少したのです。

それでは、動物園の「きまり」は、「子どもたちの命や安全を守るため」に、絶対に守らないといけない規則だと言えるのでしょうか。理由も考えてみましょう。

(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

(3) Bグループの皆で考えてみましょう。「元さんと同じ立場だったら、子どもたちを入園させる？」でしょうか。その理由も、できるだけ、複数考えてみましょう。

<p>元さんと同じ立場だったら、</p> <p>その理由は、</p> <p style="text-align: right;">(班での説明に使うキーワードも考えましょう)</p>
--

- 班に帰って ①上の質問(1)「もし事故が起きていたら母親は」に対する回答を説明。(複数可)
②上の質問(2)「絶対に守るべき規則なのか」に対する回答を説明。(複数可)
③Bグループで考えた「元さんと同じ立場だったら」の回答を伝えてください。(複数可)

エキスパートC【二つの規則】 (1) (2) (3)について話し合みましょう。

(1) 動物園の入園にはいくつかの「規則」があります。

「入園時刻を過ぎると入園させてはいけない」

「保護者同伴（どうはん）でなければ入園させてはいけない」

も、規則の一部です。それでは、「この2つの規則は何のためにある？」のでしょうか。皆で考えてみましょう。（できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。）

「入園時刻を過ぎると入園させてはいけない」のは、

「保護者同伴でなければ入園させてはいけない」のは、

(2) 元さんは、自分の判断で幼い子どもたちのために、二つの「規則」をやぶりました。

世の中には様々な「法やきまり」がありますが、自分の判断で、「法やきまり」を守ったり、やぶったりする人がいると、どんなことが起きるのでしょうか。グループの皆で考えてみましょう。

（できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。）

(3) Cグループの皆で考えてみましょう。「元さんと同じ立場だったら、子どもたちを入園させる？」でしょうか。その理由も、できるだけ、複数考えてみましょう。

元さんと同じ立場だったら、

その理由は、

(班での説明に使うキーワードも考えましょう)

- 班に帰って ①上の質問(1)「2つの規則は何のためにあるのか」に対する回答を説明。(複数可)
②上の質問(2)「自分の判断で規則をやぶる人がいると」に対する回答を説明。(複数可)
③Cグループで考えた「元さんと同じ立場だったら」の回答を伝えてください。(複数可)

【ジグソー資料】

各エキスパートからの説明の後、みんなで考えましょう。

「あなたが元さんと同じ立場だったら」，どうしますか。

ジグソーグループで話し合っ、様々な理由を考えてみましょう。

大切だと考えた順に、「理由」を書いてください。

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班
判断	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない	入園させる or 入園させない
理由							

判断した理由は

○

○

○

【質問2】

話し合いを通して、もう一度考えてみましょう。

元さんは、幼い二人の子を、入園させるかどうかで悩みました。

泣きだしそうな声で、「弟の誕生日だから……だから、見せてやりたかったのに…」

という、弟を思う姉の優しさ。

しかし、入園終了時刻を過ぎていましたし、保護者も一緒ではなかったのです。

もし、**あなたが、元さんと同じ立場だったら**、どうしますか。理由も考えてください。

ア 入園させる

イ 入園させない

そう判断した理由は

○

○

○



【質問3】 あてはまる番号の枠全体を黒く(■)塗りつぶしてください。

1	学校の授業全体のうち、このような進め方の授業(グループでの話し合いを中心にした授業)をどのくらいやりたいですか	とてもやりたい(毎日1時間くらい、あるいはそれ以上)	5
		結構やりたい(週に1, 2回くらい)	4
		時にはやってもよい(月に1, 2回くらい)	3
		たまにはやってもよい(学期に1, 2回くらい)	2
		やりたくない	1

